

**斑点米カメムシ類が、出穂した水田内で平年より多く確認されています。
適切な防除により、斑点米の発生を防ぎましょう。**

- 1 対象作物：水稻
- 2 病虫害：斑点米カメムシ類
- 3 対象地域：県内全域
- 4 発生量：やや多い

予報の根拠

- (1) 8月1～2半旬に、水田内のすくい取り調査を行った結果、会津及び浜通り地方において、アカヒゲホソミドリカスミカメ（写真1）及びアカスジカスミカメ（写真2）のすくい取り頭数が平年より多かった（図1、2）。
また両地方とも、これらカメムシ2種の発生地点率が平年より高かった（図3、4）。
- (2) 中通り地方では斑点米カメムシ類はおおむね平年並の発生であるが、中通り南部のクモヘリカメムシ常発地域では、イネ科雑草（ヒエ）が繁茂した水田で本種の多発ほ場が認められた。
- (3) 天気予報によると、今後も気温の高い状態が続くと予想されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると推測される。

防除対策

- (1) 本年、水稻の出穂時期が早まっているので、斑点米カメムシ類の発生の常発地域や、水田内にヒエ等の雑草が繁茂している水田では、防除適期を失しないように注意する。
- (2) 水面施用剤による防除は、穂揃期～乳熟期に実施し、その後多発が予想される場合は、散布剤により追加防除を行う。
- (3) 散布剤による防除は、乳熟期（出穂期の7～10日後）の薬剤散布を基本とし、その後も多発生が見られる場合は、7日おきに追加防除を行う。
- (4) 防除の目安としては、乳熟期の水田内（畦畔際）のすくい取り調査（20回振り）で2～4頭である。
- (5) 畦畔等の草刈りは斑点米カメムシ類を水田に追い込むことになるので、やむを得ず草刈りをする場合は、薬剤散布をあわせて行う。

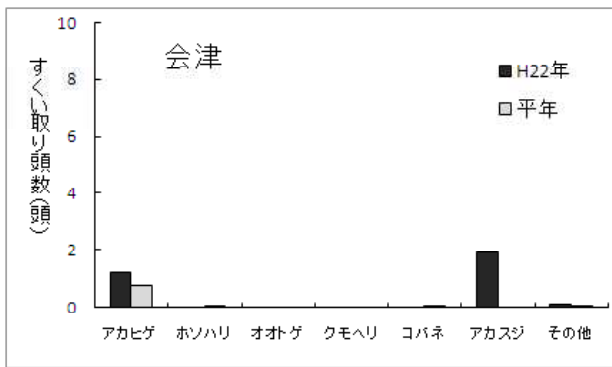


図1 斑点米カメムシ類の水田内すくい取り頭数
(会津、8月上旬、20回振り当たり)

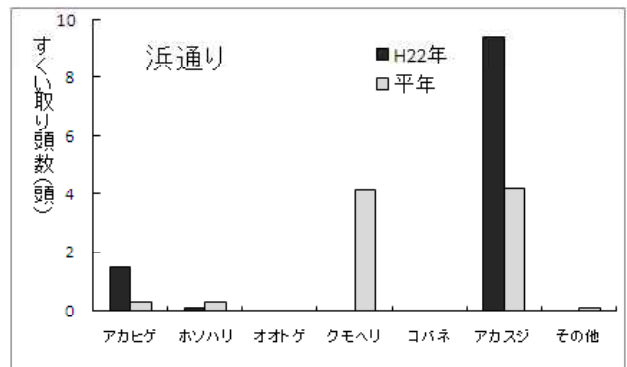


図2 斑点米カメムシ類の水田内すくい取り頭数
(浜通り、8月上旬、20回振り当たり)

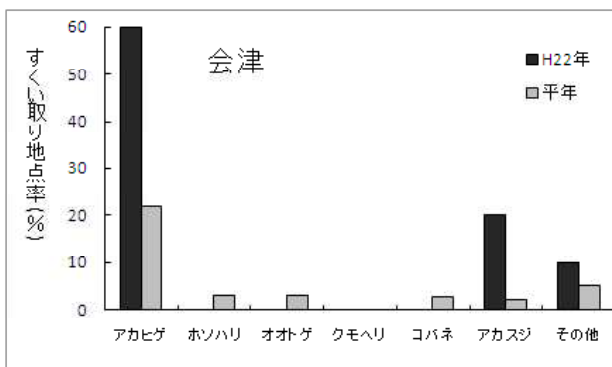


図3 斑点米カメムシ類の水田内すくい取り地点率
(会津、8月上旬)

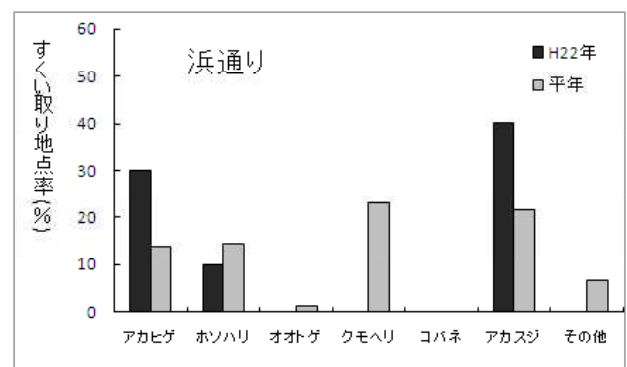


図4 斑点米カメムシ類の水田内すくい取り地点率
(浜通り、8月上旬)

(アカヒゲ：アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリ：ホソハリカメムシ、オオトゲ：オオトゲシラホシカメムシ、クモヘリ：クモヘリカメムシ、コバネ：コバネヒョウタンナガカメムシ、アカスジ：アカスジカスミカメの略)



写真1 アカヒゲホソミドリカスミカメ



写真2 アカスジカスミカメ

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）までご連絡ください（TEL 024-958-1709、FAX 024-958-1727）。
- 本情報は、福島県病害虫防除所ホームページ（<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）でもご覧になれます。